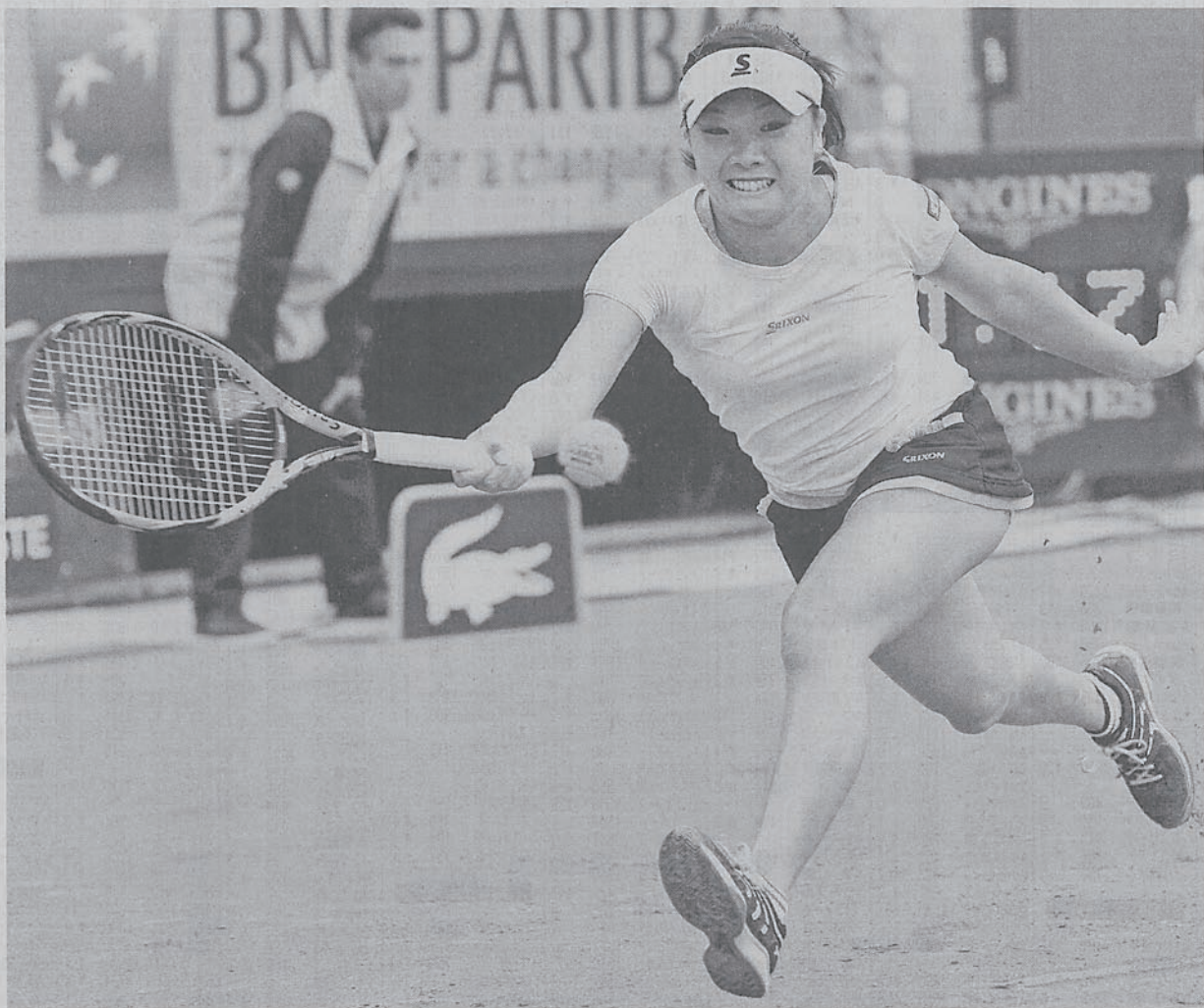


奈良 2回戦敗退



テニスの全仏オープン第5日は29日、パリのローランギャロスで女子シングルス2回戦などが行われ、世界ランク44位の奈良くるみ(安藤証券)は、同7位で第6シードのエレナ・ヤンコビッチ(セルビア)に5-7、0-6で敗れた。これでシングルスの日本勢は男女とも姿を消した。

女子ダブルス1回戦では青山山修子(近藤乳業)、レナタ・ボロコバ(チエコ)組がフランスのペアを6-1、

全仏テニス

6-4で破った。クルム伊達公子(エステティックTBC)、バルボラ・ストリツォバ(チエコ)組もストレート勝ち。奈良、アンナ・スファミエドロバ(スロバキア)組は台湾ペアに敗れた。

男子シングルス2回戦は、第1シードのラファエル・ナダル(スペイン)がストレート勝ちした。第4日の28日には、マリア・シャラポワ(ロシア)がツバタナ・ピロンコバ(ブルガリア)を7-5、6-2で破り、3回戦に進出した。

シングルス日本勢姿消す

「これが実力差」

奈良が、元世界ランク1位のヤンコビッチを苦しめた。番狂わせを演じることができなかったが、「自分出来ることは出し切った」。

た。これが相手との実力の差だと思おう」と、試合後は晴れやかな笑みを見せた。

ヤンコビッチとは四大大会で3大会連続の対戦。昨年、今年1月の全豪では、いずれも3回戦でストレート負けを喫していた。

その2試合の経験を生かし、相手が嫌がるフォア側に球を集め、勝機を探った。「サービスゲームを攻撃的にできた」。前後に揺さぶり、前にも出て、鮮やかなショットを決めた。自分から仕掛けて相手を苦しめ、第1セット終盤まで互角の戦いを繰り広げた。

第11ゲームで初めてブレイクを許し、第1セットは落とした。好サーブで崩された第2セットは1ゲームも奪えなかったが、全仏で3度、4強入りしているクレー巧者に対し、ミスを恐れず、積極的なプレーで立ち向かい、成長の跡を感じさせた。

「今大会は1回戦で苦しみながら勝って自信になった。もっと一球一球の質を高めていきたい」。全仏で初めて2回戦に進んだ経験を、今後に生かすつもりだ。

(パリ 大野展誠)

▲ ヤンコビッチに敗れた
奈良―飯島啓太撮影